

認知症とともに生きるまちづくり(補足資料)

①これまでの主な取組み状況

- 認知症の人やその家族の居場所づくり
幅広い世代が利用するコーヒーチェーン店と「認知症の人にやさしい地域づくりに関する包括的連携協定」を締結し、市内の店舗で、市主催の認知症カフェ「Dカフェ」を実施しました。また、市主催のもの以外にも、市内各所で様々な団体によりDカフェが実施されました。
- まちづくりワークショップの開催
16 のまちだアイ・ステートメントを活用して地域のつながりや居場所づくりについて検討するワークショップを学生や地域住民向けに開催し、多くの方の参加がありました。
- 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座を実施
- 認知症を正しく理解し、地域で温かく見守る人を養成する認知症サポーター養成講座を実施しました。また、認知症サポーター養成講座の受講者が、認知症についての理解をさらに深めるための認知症サポーターステップアップ講座を実施し、多くの方が受講しました。
- 認知症電話相談
チラシの作成や、広報まちだへの掲載など、事業の更なる周知を行いました。その結果、認知症の専門相談窓口における電話相談件数は増加しました。

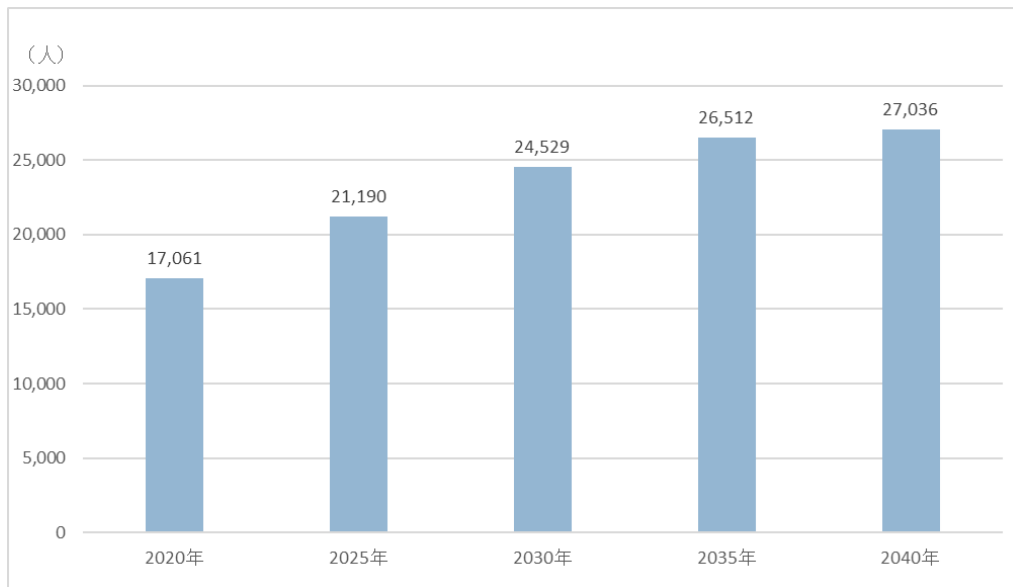
②法改正等の状況

- 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の成立
認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会の実現を推進することを目的とする法律が成立しました。
- 「認知症施策推進大綱」の中間評価実施
大綱の進捗状況の中間評価が行われました。成人の週1回以上のスポーツ実施、認知症カフェの普及、成年後見制度の利用促進など、全国的に進捗状況が低調であった項目については、国において、よりわかりやすいコンセプトの周知徹底、好事例や留意点の情報共有などを通じ、未実施の自治体への支援を実施することとなりました。

③統計データや各種調査の分析

- 町田市の認知症者数は2020年時点で約17,000人と推定されます。この人数は団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年には約1.5倍の約27,000人まで増加し、高齢者のほぼ5人に1人が認知症者となる見込みです。

【図 1】町田市の認知症者数の推計



○主な家族介護者の4人に1人が認知症状への対応に不安を抱えています。

主な家族介護者が不安に思うこと

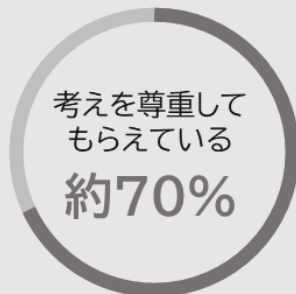


約4人に1人の主な家族介護者が
認知症状への対応に不安を抱えています

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じることを尋ねた設問では、25.7%が「認知症状への対応」と回答しました。

○認知症の人の70%は、周りの人に自分の考えを尊重してもらえていると思っています。

認知症の人の約70%は、周りの人に自分の考えを尊重してもらえていると思っています



周りの人が自身の考えを尊重してくれているかを尋ねた設問で「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答した認知症の人の割合は、69.0%でした。

④次期プランに反映すべき課題

○認知症の人やその家族が暮らしやすいまちづくりが引き続き求められています。

○認知症の人の家族に対する支援の拡充が求められています。